

[平成18年度普及に移した技術]

[普及に移す技術名] ダイズウコンノメイガの薬剤感受性と防除薬剤の選定

[要約] ウコンノメイガ幼虫の薬剤感受性を虫体局所施用法および葉巻表面塗布法で検定した結果、CYAP、イソキサチオンに対する感受性が高く、PAP、シラフルオフェンに対しては低い。

[キーワード] ウコンノメイガ、薬剤感受性、虫体局所施用法、葉巻表面塗布法

[担当] 農業試験場・生産環境部・病理昆虫研究グループ

[連絡先] 電話 0776-54-5100 電子メール s-takaoka-sc@pref.fukui.lg.jp

[分類] 参考

[背景・ねらい]

ウコンノメイガの発生量は年次変動が大きく、多発年では、開花期頃の葉の著しい食害を被ると収量低下につながる。また、本虫に対する登録農薬はCYAP粉剤だけであり、本虫に効果の高い薬剤も不明瞭である。そこで、ダイズの他の害虫に登録があり、県内でよく使用されている薬剤について本虫に対する薬剤感受性を検定し、防除の際の薬剤選定に資する。

[技術の内容・特徴]

1. 虫体局所施用法（幼虫の胸部に薬剤を直接塗布し、その後の死虫率を調査）では、CYAP、イソキサチオンの本虫に対する感受性は高く、PAP、シラフルオフェンは低い（表1）。
2. 葉巻表面塗布法（葉巻の中に幼虫を入れ、葉巻の表面に薬剤を塗布し、その後の死虫率、葉の食害程度を調査）でも、虫体局所施用法と同様に、CYAP、イソキサチオンでは死虫率が高く、葉の食害も軽微である。しかし、PAP、シラフルオフェンは死虫率も低く、葉の食害も甚大である（表1）。
3. 以上のことから、ウコンノメイガには、CYAP、イソキサチオンの防除効果が高い。

[技術の活用面・留意点]

1. ウコンノメイガに登録のある薬剤は、CYAP粉剤だけである。
2. ウコンノメイガの幼虫の発生初期は、8月上旬であり、他の主要な害虫の発生時期に比べ、早いうえ、幼虫はすぐに葉巻を作り、その中に潜ってしまうため、防除適期を逃さないよう注意する。

[具体的データ]

表1 ウコンノメイガ薬剤感受性検定

薬 剤 名	登録状況		虫体局所施用法		葉巻表面塗布法	
			死 虫 率 (%)		死虫率 (%)	食害程度
	ウコンノメイガ	他害虫	24時間後	72時間後	72時間後	72時間後
CYAP			85.0	96.7	70.0	少
イソキサチオン	×		91.7	98.3	71.7	少
MEP	×		76.7	91.7	63.3	中
PAP	×		46.7	63.3	28.3	多
エトフェンプロックス	×		65.0	76.7	53.3	中
シラフルオフェン	×		40.0	56.7	43.3	多
無処理	-	-	0.0	1.7	0.0	甚

- 注) ・供試虫採取日: 8月3日
 ・供試虫採取地: 福井市荒木別所町、あわら市、越前市赤坂町
 ・虫体局所施用法: 3齢幼虫の胸部背面に薬剤を塗布し、ダイズの葉片を入れたプラスチック容器内で飼育し、24および72時間後に死虫率を調査した。
 1処理当たり20頭ずつ3反覆で行った。
 ・葉巻表面塗布法: 殺虫剤無散布圃場から採取したダイズの葉で直径2cmの円筒状の葉巻を作り、3齢幼虫を1頭ずつ放飼した。葉巻表面に薬剤を塗布し、プラスチック容器内で飼育し、72時間後に死虫率および葉巻の食害程度を調査した。
 1処理当たり20頭ずつ3反覆で行った。
 ・食害程度: 甚(食害面積率80%以上) 多(50~80%) 中(20~50%)
 少(0~20%) 無(食害なし)

[その他]

研究課題名: 発生予察事業(国庫)

研究期間: 2005年度

研究担当者: 高岡誠一